

令和2年度 学校評価一覧表 桐生市立広沢小学校

羅 針 盤		方 策		自己評価（総括評価）	
評価対象	評価項目	具体的数値項目	◎R2の重点課題	自己評価	改善策
I 保護者と連携を図りながら教育をすすめていますか。	1 学校は、保護者への連絡をきめ細かく行っていますか。	①「学校や子どもの成長の様子がわかる」と答える保護者が80%以上である。	・ふれあいメール、電話、家庭訪問、連絡帳等による連絡及び学校通信や学年、学級便りによる情報公開の充実	A	・通信等での連絡やふれあいメールでのお知らせ等により、保護者に伝えるべき連絡を徹底することができた。ふれあいメールについては、登録有無等の確認をしたことにより各家庭に応じた対応を確認することができた。また、不審者への対応やコロナウイルス感染症対策等緊急性を伴うことにも対応できた。今後も保護者に寄り添った情報公開に努める。
	2 学校は、保護者が学校を理解したり、協力したりしやすい環境をつくっていますか。	②授業参観や懇談会に出席している保護者が80%以上である。 ③質問や相談にきちんと対応していると感じている保護者が80%以上である。	・授業参観日や懇談会内容等の家庭への早期の連絡（保護者のニーズに応えた内容）と、懇談会内容の充実 ・職員の専門職としてのモラルの高揚（報告、連絡、相談による協力体制や組織的対応の充実。） ・質問等で相手への誠実な回答の励行	A A	・学級・学年懇談会の内容は充実することはもちろんであるが、保護者同士の情報交換を望んでいる声も聞かれるので、引き続き保護者のニーズに応えた内容になるよう努めていく。 ・保護者から質問や相談があった場合は、その内容に応じてSCにつなげたり、管理職に報告したりし、今後も組織的な対応を行っていく。
II 児童は「確かな学力」を身に付けていますか。	3 学校の授業は、わかる授業となっていますか。	④「授業がわかる」と答える子どもが80%以上である。	・5.6年教科担当制及び理科、音楽（3年以上）の専門的でわかりやすい指導 ・体験的な学習や課題解決的な学習を取り入れた授業展開の工夫	A	・来年度も5・6年の教科担任制等を行うことにより、教材研究の時間の確保と質の高い指導を継続していく。また、6年の英語については、中学校からの兼務教員の指導により、小中の学習の継続性を図っていく。
	4 学習したり読書したりする習慣が児童に育っていますか。	⑤家庭での学習や読書を、1日あたりの目標時間以上（1.2年30分、3.4年40分、5.6年60分以上）行っている子どもが80%以上である。	・望ましい授業態度の指導徹底 ・「家庭学習の手引き」の周知、活用 ・発達段階に応じた「読んでおきたい図書」情報の提供	C	・学習の仕方や授業態度の共通理解を図り、学習に集中できるよう環境を整えてきた。引き続き、児童一人一人が集中して学習に取り組めるように共通実践していきたい。 ・自主学習のアイデアを提案したり、がんばりを評価することで家庭学習の意欲を高めていく。 ・13日家庭の日と絡めて学習デイを設定したり読書の課題を出したりしていく。 ・朝読書の時間に児童が読書を楽しめる環境や雰囲気作りをする。
III 児童に基本的な生活習慣を身に付けさせ、「豊かな心」をはぐくんでいますか。	5 すすんであいさつしたり、はっきり受け答えしたりできる児童が育っていますか。	⑥すすんであいさつできる子どもが90%以上である。	・職員の率先垂範 ・委員会児童によるあいさつ運動 ・道徳や学活の時間を中心とした「あいさつの意義」の指導 ・懇談会や通信等による家庭へのあいさつ励行意識の啓発、あいさつ週間	C	・委員会児童によるあいさつ運動が広まり、多くの児童がボランティアで参加する等、自主的な活動が行われた。活動が認知され、児童一人一人に変容が見られ始めている。今後も数字ばかりにとらわれず、日常的に自然と「あいさつ」ができる学校を目指していく。 ・あいさつがよくできたクラスを昼の放送で称賛する ・あいさつの大切さを朝会や学活、道徳などで伝え、基本的に「いつ、誰に、どのように」あいさつをするとよいのかを指導していく。
	6 いじめのない温かな人間関係が育っていますか。	⑦相手の立場や気持ちを考えた、親切な言動がとれる子どもが80%以上である。 ⑧自分のクラスを好きだと言っている子どもが90%以上である。	・相手の立場や気持ちを考えた言動のできる心の育成 ・生徒指導委員会を中心とした問題把握と事後指導及び未然防止の指導と対応 ・QUの結果を生かした学級経営の充実 ・互いに目を見てあいさつ、話ができる態度の育成 ・自己有用感、充実感の向上を図る学級経営	A	・いじめ事案等緊急性のある場合は随時会議を行ったり、必要に応じて情報共有したりする。今年度、行事の精選を行ったことで、児童とのふれ合う時間や職員同志の情報共有など、機を逸さない対応ができた。今後も組織的に対応できるよう時間を確保したり、情報交換を密にしたりしていく。 ・人権週間やいじめ防止月間、道徳と学活の授業を通して、意図的・計画的に人権教育を進めていく。
	7 学校や家庭での自分の役割を果たしていますか。	⑨学校や家庭で自分の役割を果たしている子どもが90%以上である。	・率先垂範による清掃指導の徹底 ・学級や家庭で役割を持たせ、奉仕の心を大切にした生活実践	A	・学級での係活動や委員会活動、日々の清掃指導等を教職員が児童とともに取り組んでいくことで、充実させたり、取り組みの様子を家庭に知らせたりしながら充実を図っていく。また、中学校との連携を密にした系統的なキャリア教育を実施する中で、自分の個性や役割についても育てていく。
IV 児童の健康づくりに努めていますか。	8 規則正しい生活をしている児童が育っていますか。	⑩食事や睡眠の意味と役割を理解し、規則正しい生活をしている子どもが80%以上である。	・食育や生活習慣づくりの指導の充実 ・「生活安全目標」をもとにした、個々のPDCAサイクルの実施 ・家庭での生活習慣の形成と充実	A	・保健だよりで健康づくりの大切さを伝えていくとともに、学級活動での指導を計画的に行っていく。その状況を通信等で保護者にも知らせ、家庭と連携を図っていく。
	9 日常的に運動に取り組めるよう、時間や場などの環境を整えていますか。	⑪からだを動かして遊んだり運動したりしている子どもが80%以上である。	・休み時間における外遊びや運動の励行 ・朝の運動の充実 ・遊具の充実	A	・肥満指導と関連付けながら指導を行うことで、基本的な生活習慣の改善を促していく。 ・朝の運動の指導内容及び計画を見直し、計画的に体力作りが行われるように努める。
V 児童の安全確保に努めていますか。	10 学校施設の安全管理を徹底していますか。	⑫防犯や避難、救護などを想定したシミュレーションを学期1回以上実施し、安全（危機）管理マニュアルの見直しを図っている。	・避難訓練等、学期1回以上の実施 ・定期的安全点検の励行 ・交通安全教室、年2回の実施	A	・日々の安全指導について共通理解を図り強化するとともに、実施した避難訓練等の反省を生かし、各関係機関等との連携を密にとりながら実践的な危機管理体制を整えていく。
	11 通学時の安全対策をとっていますか。	⑬事故の発生原因を理解し、正しい歩行の仕方や自転車の乗り方ができる子どもが90%以上である。 ⑭通学路の危険箇所について子どもと話し合ったり確認し合ったりして、緊急時の対応がとられている家庭が90%以上である。	・PTA生活指導部との連携及び職員による交通安全指導の徹底 ・スクールゾーン対策委員会、教職員による通学路の危険箇所の見直しと改善充実 ・地区児童会の活動内容の充実	A A	・今後もスクールゾーン対策委員会で検討された内容等をPTA生活指導部と共有し、家庭に啓発することで、安全対策の徹底を図る。
	12 児童が自らの将来について考えるように育っていますか。	⑮子どものよいところを認め、励ますよう努めている保護者が80%以上である。	・連絡帳等を活用した児童のよさの情報提供、認める心や態度の醸成	A	・「将来」とは、子どもたちが社会に出て、独り立ちし、たくましく生きていく頃を想定する。そのために義務教育の9年間、小学校の6年間で何が必要なのか。キャリア形成と自己実現を図っていく。
VI 児童に将来への夢や希望をはぐくんでいますか。	13 児童は将来の夢や希望をもっていますか。	⑯将来の夢や希望する進路について家の人と話し合っている子どもが80%以上である。	・保護者会や学校、学年便りを通しての進路指導の伝達 ・特活、道徳を中心に児童の将来や進路について考えるキャリア教育の充実	A	・道徳やキャリア教育と関連しながら、自己を見つめたり、将来について考えたりする指導を中学校と連携し、継続的に行っていく。
	14 学校は地域について学習する機会をもっていますか。	⑰地域について学習する機会があり、地域を理解し地域に親しみを感じている子どもが80%以上である。	・生活科や総合的な学習の時間、社会科の授業での地域の取り上げと、学習の機会の設定 ・地域行事の紹介と積極的な参加の啓発	A	・生活科や総合的な学習の時間、社会科を中心として、社会に開かれた教育課程を構築し、実践していく。また、地域と連携しながら、行事に参加するよう児童や家庭に啓発していく。
VII 目指す児童像の育成に向けた組織を編成し、円滑に運営していますか。	15 目指す児童像に迫るための手だてを考え、実践していますか。	⑱学校評価の各項目と担当している校務分掌を関連付けて実践し、成果や課題を明らかにしている。	・担当している校務分掌のねらいや内容、方法の明確化と実践、評価	A	・一人一人が各分掌で把握した課題等を、職員が共有し、解決に向け実践できるよう態勢づくりを強化していく。
	16 組織の一員として協働参画していますか。	⑲一人一人の職員が立案した企画書の理解に努め、自分の役割を明確にし、適切に実践している。	・校務遂行にあたっての企画立案、理解、検討の場の確保 ・学校経営参画の意識や協働態勢の確立	A	・お互いに報告・連絡・相談を行うことで、職員同士で共通理解ができ、協力しながら対応することができた。今後も自分の役割をしっかりと行いつつ、協働態勢が確立できるよう整えていく。